



1月・2月講座紹介

申込期間 11月5日(月)～11月22日(木)

秋の深まりとともに朝夕の冷え込みが厳しくなってきました。学びを深める1月・2月実施の2講座を紹介します。

No.405、406

京都府学力診断テスト(中学校2年)活用講座

・センター 1月18日(金)、北部研修所 1月21日(月)

京都府学力診断テスト等から生徒の学力状況を明らかにするとともに、分析・検証方法や授業改善の方策等について理解を深めます。また、現行及び新学習指導要領に基づき、内容の系統性を踏まえた効果的な授業の在り方を構想します。

指標 ステージ2(中堅期)・学習指導

No.415

幼小「音楽科&図画工作科」講座

・北部研修所 2月14日(木)

・講師:大阪総合保育大学 松岡宏明 教授

幼児や児童が表現活動を通して身に付ける資質・能力を理解し、造形表現面での発達やその特徴を軸に豊かな感性をはぐくむ指導方法を学びます。

指標 ステージ1(初任期)・学習指導

特集!!

学級経営のキホン

『学級目標』を見直そう

先生方の実践につながる様々な「今伝えたいこと」を伝える『特集!!』。前回の高等学校学習指導要領に続き、今回は「学級経営」についてです。

学級経営における「4つの活動」

- ・児童生徒のまとまりをつくりあげる活動
- ・学級で行われる教科・領域等の活動
- ・教室の環境を整える活動
- ・学級事務に関わる活動

「平成30年度 学校の教育力の向上を目指して
—教職の手引き—」P101から

2学期も折り返し地点を過ぎ、様々な学校行事もひと段落。行事やその前後の取組を通して、子どもたちの成長や強みが見いだせたと同時にこれからの課題も明らかになってきたのではないのでしょうか?

今回の「特集!!」では、そうした今の時期だからこそ、「学級目標」に焦点を当てて、学級経営について考えたいと思います。行事を単なるイベントにするのではなく、子どもたち一人一人の成長と集団の成長のためにぜひ活用してみてください。

初任者・新規採用者の皆さんに研修講座のスタート時にお渡ししている「教職の手引き」では、小・中学校の学級経営の活動を上記の4つにまとめています。

学級経営には「学級目標設定」「好ましい人間関係や集団づくり」「生徒指導」「教室環境の整備」「保護者との連携」「各種学級事務」など多岐にわたる内容と果たすべき役割があります。

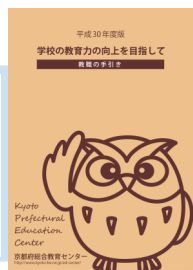
ここで特に大切なのは「学級目標設定」です。学校として育てたい資質・能力は何かを明らかにし、それを反映した学年経営方針に基づいて、学級の全メンバーが関わって描いた「**一年後の自分たちの姿**」を学級目標にどう盛り込むかが重要となります。

つまり、学級目標づくりは学級経営に中心的な役割を果たす学級(ホームルーム)担任だけでなく、学校や地域も巻き込んだ様々な人の願いやかかわりが必要になってきます。教職員全員が様々な教育活動の場面で集団の目標を点検し、振り返り、評価することが学校教育目標の具現化につながります。

年度当初に立てた学級目標が、教室の風景の一部になってしまっていて「絵に描いた餅」になっていませんか?

行事で子どもたちの様々な面が見られた今だからこそ、「**目標がどの程度達成されているのか**」「**目標達成のためにこれからの5か月をどのように過ごすのか**」について、学級で話し合ってみてはいかがでしょうか。

平成30年度
学校の教育力の向上を目指して
—教職の手引き—
はこちら!



学びの直送便

今回の「学びの直送便」は『**社会に開かれた研修講座**』をテーマに、企業連携講座やキャリア教育について紹介します。

多忙化解消のヒントを企業から学ぶ

多忙化への対応とセルフマネジメント講座（企業連携）

講師：株式会社ビジネスプラスサポート

山田容子 人財育成プロデューサー

10/2

多忙感の解消、組織としての仕事の効率化、個々の生産性を高める考え方など、働き方改革にもつながる様々な視点とセルフマネジメントについて企業連携講座での講義と演習から学びました。

最初に「多忙感を減らす方法」について、多忙感の原因が何かを突き止めながら考えました。その中で原因は業務の量だけではないことを確認し、**何が求められているかの認識、周囲との良好なコミュニケーションが多忙感を減少させ、仕事に対しての肯定的な受け止め方につながる**ことを学びました。

次に、組織内のスムーズな連携が仕事の効率化につながることを、カードを用いた演習から学びました。課長・係長・社員の3つの立場に分けることで報告・連絡・相談のスキルを高める方法について学ぶことができました。



山田容子
プロデューサー

最後に、仕事の計画を立てる前に「段取り」を考えることの重要性について5つの要素から学び、学校現場での業務内容にあてはめて具体的に考えました。

仕事の「段取り」を決める5つの要素

- ・目的 質を高めるためには目的の明確な把握が重要
- ・期限 期限の把握は計画を立てたり、人に依頼する上で重要
- ・投下時間 時間に見合った成果を生むため目標時間の設定が重要
- ・質と量 要求される「質」「量」のバランスを取ることが重要
- ・優先順位 緊急度や重要度を考え進め方を考えることが重要

社会につながるキャリア教育の実践へ

キャリア教育講座

一学校で学ぶことと社会との接続を考える

講師：文部科学省初等中等教育局児童生徒課 生徒指導調査官、

国立教育政策研究所 長田徹 総括研究官

清川メッキ工業株式会社 清川卓二 専務取締役

10/9

清川専務取締役からは企業の経営者の視点から、今求められているキャリア教育について話していただきました。

児童生徒の将来の夢と実際の仕事のニーズのミスマッチがあることに触れ、今の児童生徒は自分たちにとって未知の職業に就く可能性が高いので、「**誰に満足を与えるために仕事をするか**」という『志』に目を向けていく指導の大切さについて講義いただきました。

また、「きょう育」と「人ざい」の二つの言葉について「**良い循環は人ざいを教育して人材となり、人材を共育して人財となる。更に強育をしていく。**」とお話しになり、教員にとっての一流の仕事とは、一つには「今、目の前にいる児童生徒ではなく、将来の子どもを育てること」だと講義いただきました。



長田徹
総括研究官



清川卓二
専務取締役

また、長田総括研究官からはキャリア教育と教科指導とのつながりについて話していただきました。

「自分の選んだ道を自信を持って進んでいきたい」と考える児童生徒を育成するために、教科横断的な学びを一人一人のキャリア形成に繋げることが大切であることを中心に、現状は目的と手段を取り違えたり、逆転しているため負担に感じる先生方が多いのではないかと。全ての授業において実施する必要はなく、**まずは各教科の特質に応じてキャリア教育を実践していくことが大切である**と強調されました。

理論と全国各地の学校における実践の紹介の上に、演習やロールプレイを中心とした体験型の講座で、受講者にとって有意義な学びのある時間となりました。

目標を達成するための「戦略的思考」

学校目標達成のための戦略的思考力演習講座

講師：株式会社イント 掛川和彦 代表取締役

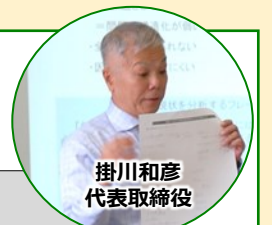
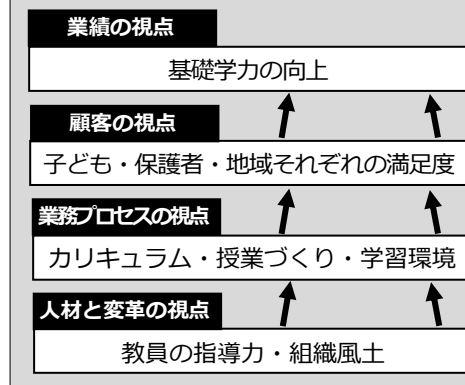
10/16

マネジメントについての幅広い考え方について、「**目標設定」「組織構造」「PDCA**」の3つの視点から学びました。

ストラテジーマップを用いた演習では、**目標達成への様々な要素の関連**を意識することを学びました。また、「階層組織」と「チーム」の二種類の組織構造を例に挙げ、それぞれの特徴から「**新たなプロジェクト立ち上げには『チーム』が有効で実行には『階層組織』が有効である**」など、**組織の使い分けなどの具体的な手法**についても学びました。

企業と学校の違い、共通点を踏まえながら、明日からの実践につながる様々なヒントを得た講座となりました。

目標達成の手順を整理する「ストラテジーマップ」



掛川和彦
代表取締役

目標達成に必要な事項を挙げ、それぞれの関連を図示することで構造化する